

### 学位論文の内容の要旨

専攻	医学専攻	部 門 (平成27年度以前入学者のみ記入)	
学籍番号	17D722	氏 名	横山聖太
論文題目	Time Course Changes in Urinary Angiotensinogen and Circulating N-Terminal Pro-B-Type Natriuretic Peptide in Patients Hospitalized with Acute Heart Failure		
(論文要旨)			
<p>背景・目的：心不全患者のケアにおいて、患者個人のQOLを維持するためにも各家庭（在宅）での管理の重要性が増している。心不全患者の在宅管理を最適化するためにも、採血を必要とせず非侵襲的に測定可能なバイオマーカーがあれば理想的と思われる。尿中アンジオテンシノーゲン（uAGT）は腎内レニンアンジオテンシン系の指標として確立されており、心不全患者においても活性化されている事が考えられる。我々はuAGTが心不全管理における尿を用いたバイオマーカーになり得ると仮説を立てた。</p> <p>方法：我々は心不全で緊急入院となった45名の患者において入院時・退院時それぞれの時点でELISA法を用いuAGTを測定し、尿中クレアチニンで補正した。（それをuAGT/uCrと表記した。）</p> <p>結果：我々はuAGT [中央値（IQR）：65.5（17.1-127.7）<math>\mu\text{g/g Cr}</math>・入院時；12.1（6.0-37.0）<math>\mu\text{g/g Cr}</math>・退院時；<math>P&lt;0.01</math>]と既存の血液マーカーであるNT-proBNP [5422（2280-9907）<math>\text{pg/mL}</math>・入院時；903（510-1729）<math>\text{pg/mL}</math>・退院時；<math>P&lt;0.01</math>]のどちらもが、心不全患者の臨床的経過の改善[New York Heart Association scores: 3（3-4）・入院時；1（1-1）・退院時；<math>P&lt;0.01</math>]に伴い入院時から退院時にかけて有意に減少する事を確認した。退院後に更に再入院となった5名の患者において、uAGT/uCrとNT-proBNPの入院時～再入院時にかけての時間経過が有意に相関している事がGeneralized least squares modelを用いて証明された。</p> <p>結論：本研究結果は心不全患者においてuAGT/uCrとNT-proBNPの時間経過が相関する可能性を示唆するものであった。心不全患者におけるバイオマーカーとしてuAGTの臨床的有用性をより詳細に検討するために、更なる今後の研究やuAGTの迅速測定キットの開発等が必要と思われる。</p>			

掲載誌名	Internal Medicine		
	第 卷, 第 号		
(公表予定) 掲載年月	In press (掲載受理 2020年6月8日)	出版社(等)名	<del>予-STAGE</del> Japanese Society of Internal Medicine
Peer Review	有		